



## ■ビオトープ・サロン 生態系ネットワークはビオトープネットワークが必要不可欠

昨年の12月24日、国土交通省四国整備局徳島河川国道事務所において、吉野川流域生態系ネットワーク検討委員会の初会合が開かれました。徳島新聞(平成26年12月25日)の記事から概要を紹介いたします。(編集部)

### 【吉野川流域生態系ネットワーク検討委員会が発足】

記者：榎本幸実(会員)



検討委員会の会議様子(写真)と資料等が徳島河川国道事務所のHPにアップ(公開)されています。  
<http://www.skr.mlit.go.jp/tokushima/river/yoriyoi/yoriyoi/ka/seitaikei/1/seitaikei-1.htm>

吉野川流域生態系ネットワーク検討委員会は、吉野川流域の豊かな生態系を維持するための環境保全策などを考えることを目的とされています。

委員会は徳島河川国道事務所の呼びかけで発足、県内の自然保護団体や経済会の代表、大学教授、県職員ら16名の委員で構成されています。

初会合では、吉野川流域で守りたい生物や対象とする保護地域などについて意見が交わされました。

具体的な取り組みとして、ウナギの保全やアユの産卵場の再生、河床の土砂管理、放置竹林対策などをはじめ、様々な対策を求める意見が出されました。

委員会での議論を踏まえ、吉野川流域の生態系ネットワークづくりに向けた目標と基本方針を策定の後、モデルとなる事業を選定し事業化が図られます。

委員会は3ヶ年を予定されており、専門部会と連携部会の2部会で議論が深化され、具体的な事業は2016年度を目処に、地域の多様な主体との連携によって推進されることが目指されています。(以上、徳島新聞参照)

意見交換はワークショップ方式で進められ、[ナベツルやガン類]を生態系ネットワークの指標種とする意見や、[じんぞくたらいうどんの復活]を目指したカワヨシノボリ生息地の自然再生と観光振興、[清流吉野川のアピール]による地域振興施策、[外来種対策]など、様々な立場や視点から多様な意見が出されました。事業の推進と継続のためには、地域の多様な主体との連携が必要不可欠であり、委員会に参加している団体に止まらず、地域で活動する団体との情報交換も期待したいところです。生態系というシステムが成立する場所、ビオトープ(野生生物の生息生育空間)のネットワークにも注目ですね。



## ■ビオトープ・カルテ みんなで集めるビオトープ情報 ~甦れ!“じんぞくたらいうどん”~

記者：榎本幸実(会員)

### 【かつては“じんぞく狩り”の好適地でした】

ビオトープ・タイプ：沢

規模：宮川内ダム上流の沢筋一帯

環境特性：石礫が堆積した開けた沢

周辺土地利用：山林(県立自然公園/生活環境保全林)

撮影年月日：2015年1月18日

場所：土成町宮川内(宮川内谷川上流域)



周辺一帯は奥宮川内谷県立自然公園として保全されていると共に、龍蛇谷生活環境保全林が整備されています。また、谷筋には御所の名物[たらいうどん]の店が連なり、土御門上皇終焉伝説地の[御所神社]や屋久島の大噴火がもたらした[太鼓坂(歩くと太鼓のような音が響く?)]などがあり、初夏にはゲンジボタルが乱舞します。(生活環境保全林は修復が急務)かつては、農閑期などに地域の人々が“じんぞく狩り(ごり押し)”を楽しむ場所でもありました。しかし、(昭和30年代?)砂防堰堤が随所に

築かれ、今では石礫の堆積が満杯となり、かつての沢底は埋没して流水の多くが伏流しています。

堆積満杯は宮川内ダムの堆砂にも影響すると推察しますので、本来の流れを取り戻すには、砂防ダムに堆積した石礫を除去し、浮き石が散在する開けた平瀬を再生、除去した石礫は多自然川づくりなどの自然材料として活用すれば、宮川内ダムの堆砂抑制、観光振興、自然材供給と、相乗効果は一石三鳥になるかも。でも、“じんぞく狩り”には持続可能な利用のためのルール作りも重要です。

ちなみに、“じんぞくたらいうどん”は、林業が盛んだった宮川内谷川流域が発祥で、山仕事の樵夫達の仕事納めの振る舞い料理が起源とされ、大勢で釜をつつくため「釜抜き千本」とも呼ばれたそうです。また、山の樵(きこり)が慰労のため、谷川で“じんぞく”をとり、これを出汁にして手打ちうどんを食べたのが始まりとも。そして、時代と共に変化し郷土食へと定着したのでしょう。



観光イベントのじんぞく狩り(出典：広報阿波 2013.9)

**ビオトープ・サロン お便りコーナー**

新春のメッセージを頂きました。ありがとうございました。皆さんの声を励みに話題提供に努めます。(編集局)

【Aさん】150113

ビオトープニュース拝受。どうもありがとうございます。今年も実り多き年となりますように！

【Yさん】150114

明けましておめでとうございます。今年もどうぞよろしくお願い申し上げます。いつもビオトープニュースのご配信ありがとうございます。昨年は大変お忙しい一年だったことと存じます。今年もご活躍をお祈りいたします。

【Sさん】150114

明けましておめでとうございます。毎回ニュースのご送付ありがとうございます。熱心な活動に敬意を表します。今年もよろしくお祈りいたします。

【Kさん】150114

明けましておめでとうございます。今年もよろしくお祈りいたします。今年から、ビオトープを勉強できればと思っておりますので宜しくお願いいたします。

**■ビオトープ・ナビ Q&Aコーナー ～メガソーラー発電事業者の悩み～**

発電事業者から防草対策の問い合わせがありました。コンクリートや防草シートは避けたいので、張り芝、ヤギ放牧、地被類(リュウノヒゲ・コグマザサ等)の植栽など、いろいろと思索したけれども、ヤギがパネルに上がることや費用面の問題など、妙案が無くて困っているとのことでした。カラスは硬い殻の餌を落させたり、車道に置いて車に潰させたりと、鳥類の中でも賢い部類のようです。また、油脂類が好物で、ロウソクやセッケンを啜って持ち去ることがよく知られています。今回は、パネルを田んぼと思ひ込み石を落とし被食生物を驚かして居場所を見つけようとしているのか?…今回の行動は何が目的なのか研究の価値があるかも?…被害防止対策のためにも。(編集担当)



【Q：カラスがパネルに小石を落として困っています…発電事業者】

防草のために再生砕石を10cmほどの厚さで敷均しました。ところが、カラスがその砕石を啜ってソーラーパネルの上に落とし被害を受けています。ポルトも落としています。「ホワイトクローバーを生やすと良い」との声もありますが、安価で効果的な方法は無いですか？

【A：カラスの反逆かも?…パネルは屋根や屋上に、地面には地域本来の草木を！】

先ずは、次の手順で。①砕石を除去し、その土地本来の地面を取り戻す。②地域本来の草が生えるのを待つ。③年間に4～5回の草刈りと外来種駆除を実施する。④野生のシバ類をはじめ、スズメノカタビラ、ハハコグサ、ハコベ、コオニノタビラコ、オオバコ、タンポポ、カタバミ、スミシなど、草丈の低い四季折々の人里植物が定着し安定する。…多様で美しく地域生態系を支える。ただし、パネル直下の日照が当たらない場所は草が殆ど生えませんが、傾斜地では表土の流亡や飛散の防止対策が必要です。頑張ってください!…期待に添わない回答かも知れませんが、維持管理費が賄えない事業ならば持続不可能と心得るべし。(事情を考慮すれば、砕石の粒径よりも目の細かいネットを敷設する選択肢も。お勧めではありませんが緊急的な代案として。)

**■ビオトープ・セミナー 資格試験に挑戦して基礎知識を修得しよう!**

ビオトープ管理士資格試験過去問題 出展：(財)日本生態系協会主催「ビオトープ管理士セミナー」のテキストより **無断転載禁止**：本紙は公益財団法人日本生態系協会の許可を得て転載しています。(編集局)

【施行部門の択一問題：正答と解説は次号で紹介】

問074：各種工事における施工時の配慮事項について述べた次の文のうち、誤っているものはどれですか。

1. 施行範囲が最少となる工法を検討する。
2. 資材置き場などの仮設ヤードは、規模を最小限とする。
3. 油圧ショベル等のオペレーターがビオトープの専門家であることは多くはないので、現場で発生する細かい点について、適宜、打合せを行う。
4. 施工機械が発する騒音・振動による保護対象種への影響が確認された場合には、突貫工事により工期を短縮する。
5. 工事用道路については、工事完了後、自然復元工事や在来種による緑化を行う。

■前号073の正答【4】

調査範囲内を踏査し、生息個体を直接目視で確認することが困難な大型・中型哺乳類などを対象に、糞や足跡などから生息種を推定する調査方法は「フィールドサイン調査」です。[ライセンサス調査]はあらかじめ決められたルートに沿って動植物の出現種数等を調査する方法、[コドラート調査]は正方形の枠を設置しその内側を標本として調査を行う。[ライトトラップ調査]は明かりをつけて昆虫を集める方法 [バイトラップ調査]は餌で誘引する方法です。

※2級はどなたでも受験でき、四国の受験会場は「徳島大学工学部」です。自然環境の保全に関わる方には、是非とも取得していただきたい資格です。詳しくは、<http://www.ecosys.or.jp/> (公益財団法人 日本生態系協会HP)

**■編集後記**

ビオトープに関するお役立ち情報のもとより、皆様の生活や活動やお仕事等、日常を通じて見たり感じたりしたこと、身近な自然の春夏秋冬や喜怒哀楽のご寄稿をお待ちしております。ふるってご参加ください! 編集局  
【E-mail: kanv@nifty.com URL: <http://biotopetokushima.yu-yake.com>】